



応募名称

製・配・販連携によるサプライチェーン全体の効率化活動

会社名、事業場名

三菱食品株式会社

東京都大田区 / <http://www.mitsubishi-shokuhin.com/>

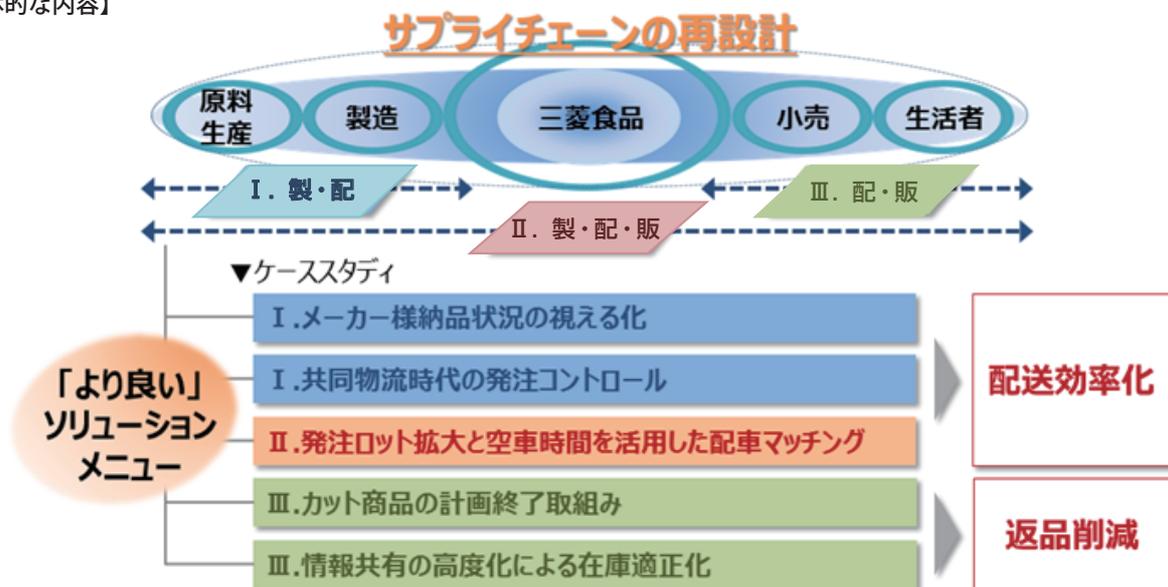
■ 具体的な取組内容 ■

【目的】

サプライチェーン全体に関わる物流現場では、倉庫内の作業員や配送ドライバー不足が慢性化・常態化しています。また、食品物流業界においては、顧客ニーズの多様化や商品数の増加、納品リードタイムの短縮化などの変化がある中で、個社単位での効率性追求・部分最適による対応では限界に達しており、サプライチェーンの効率化を妨げる一因と思われます。

荷主同士のコミュニケーションを図り、製・配・販の垣根を超えたサプライチェーン全体の効率性の追求が必要な状況の下、当社は、メーカーや小売業と向き合い、相談しながら『より良い』ソリューションメニューの構築を目指しています。

【具体的な内容】



【効果】

<配送効率化> 卸センターにおける納品状況の実態の可視化や発注コントロールを行うことにより、待機時間の削減や車両の有効活用に資する取組ができました。

<返品削減> 小売業との取組で当該センターの返品・廃棄率の低さは、関係する事業者それぞれが高水準となっています。

■ 今後の展開 ■

抜本的な解決策がないとはいえ、製・配・販が連携し、相互のインフラ・情報共有を行うことによる改善の余地は、十分に残されていると考えています。

引き続き、賛同いただけるメーカーや小売業と連携を密にし、エリアや立地ごとにお互いの課題やニーズをマッチングして解決プランを導き出していきます。

■ 評価 ■

食品卸業者が中心となって、物流センターにおける納品実態の把握と可視化、発注コントロール、情報共有による在庫の適正化などによって、返品や廃棄率を大幅に削減するとともに、近年大きな問題となっているトラックの待機時間削減、車両の有効活用をも実現した点が高く評価できる。食品産業のエネルギー・CO₂削減には「物流」も考慮する必要があり、今後さらなる製・配・販のサプライチェーン全体での取組が期待される。